

国際取引法A		講義	教授 吉田 一康
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの選択必修科目、会計ファイナンスコースの専門選択科目 教職科目	科目ナンバリング	23120201 25320230

1. 授業のねらい・概要

国際取引法の基本事項を理解することを講義の目標とします。現在、デパートやスーパーでは、「made in Japan」の商品の方が少ないかもしれません。多くの商品が、国際取引を通じて外国から輸入されたものです。「国際取引法」の講義では、そのような国際取引に関係する法律について解説します。

前期の「国際取引法A」では、国際取引法とは何かということを明確にし、次に、国際取引紛争の解決方法と紛争に適用される法律（準拠法）を決定する国際私法などについて説明します。また、今後、ますます重要性が増してくると思われる英文輸出入契約書等の教材やDVDを使用して、分かり易い講義を心掛けます。

基礎的な法律知識を必要としますので、「ビジネス法学入門」を履修していることが望ましい。

2. 授業の進め方

①50～60分 配布するレジュメに従って、説明や補足をしながら講義を行います。

②30～40分 配布する練習問題に回答してもらいます。また、質問を受け付けます。

3. 授業計画

1. 講義紹介	9. インコタームズ（定型取引条件）
2. 国際取引法の定義	10. 国際海上貨物運送
3. 国際裁判管轄（裁判を行う権限）	11. 国際海上貨物運送実務
4. 国際商事仲裁（調停と仲裁）	12. 荷為替信用状決済（海外への支払い方法）
5. 国際私法①（当事者に関する準拠法）	13. 国際取引契約の締結まで
6. 国際私法②（契約の効力に関する準拠法）	14. 英文輸出入契約書①（取引条件等）
7. 輸出通関（通関士）	15. 英文輸出入契約書②（準拠法・紛争解決条項）
8. 輸入通関（関税、ワシントン条約）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各講義の内容に関係する参考文献の該当箇所を読んでくること（1時間程度）。講義後、授業内容を復習して、レジュメ及び練習問題の解答を理解しておくこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①各講義で行う練習問題の後に、解答及び説明を行います。 ②期末試験の後に、解答例を掲示します。

6. 授業における学修の到達目標

①国際取引法の概略を理解すること。 ②英文契約書を理解できるようになること。

7. 成績評価の方法・基準

積極性 20%（受講態度など） ＋ 期末試験 80%（選択及び記述試験）

A 80点以上 B 70～79点 C 60～69点 D（不可）60点未満。

8. テキスト・参考文献

毎回、レジュメと練習問題を配布し、テキストは使用しませんので、特に購入する必要はありません。自習のための参考文献として下記のものを挙げます。

①佐野寛『国際取引法』（有斐閣、第4版、2014）2750円

②石川雅啓『実践貿易実務』（JETRO，第12版，2016年）3190円

③中島暁『詳解国際法律文書作成』（商事法務，2013）4400円

9. 受講上の留意事項

- ① 法律英語を使用するため、英語の基礎力が備わっていることが望ましい。
- ② 私語・態度不良など他の受講者の迷惑となる行為や、遅刻・中途退席などの目立つ受講者については、評価を減点又は受講を制限します。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、不動産会社等における法務の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。